

三島村まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン（令和7年改訂版）

令和7年4月1日
鹿児島県三島村

目 次

1、	改定にあたって	1
2、	対象期間	1
3、	人口の現状と分析	1
	（1） 人口の推移等	1
	（2） 出生・死亡、転出・転入の推移と分析	2
	（3） 転入・転出の推移から見えること	3
	（4） 産業分類別就業者数の分析	4
4、	人口ビジョンの改定	6

1. 改定にあたって

国では、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）に基づき 2019 年 12 月に、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」及び第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を公表しました。その戦略では、人口の減少に歯止めをかけること及び東京圏への人口の過度の集中を是正することが第 1 期に引き続き明確に掲げられましたが、東京圏への一極集中などの大きな流れを変えるまでには至っていないため、従来の取組を超える新たな発想に基づく施策を検討・実行していくこととし、地方自治体にもそれぞれの特徴を活かし、新しい意味での地方創生に向けた取り組みを求めています。

こうしたことから、三島村人口ビジョンの改定では、引き続き、「小さくてもきらりと光るアイランドみしま」として存続し、発展していくための人口の将来展望を示すものとし、

三島村の第 2 期の計画では 2050 年に 420 人規模まで回復することを目標としていました。2025 年 2 月 1 日の人口が 349 人であることを踏まえると、かなり厳しいものがありますが、第 3 期計画でも、目標設定を下方修正することなく、実現可能な人口ビジョンとして、目標達成度を継続的に評価、分析しながら、現実的かつ効率的な施策を展開していかなければならないと考えています。

2. 対象期間

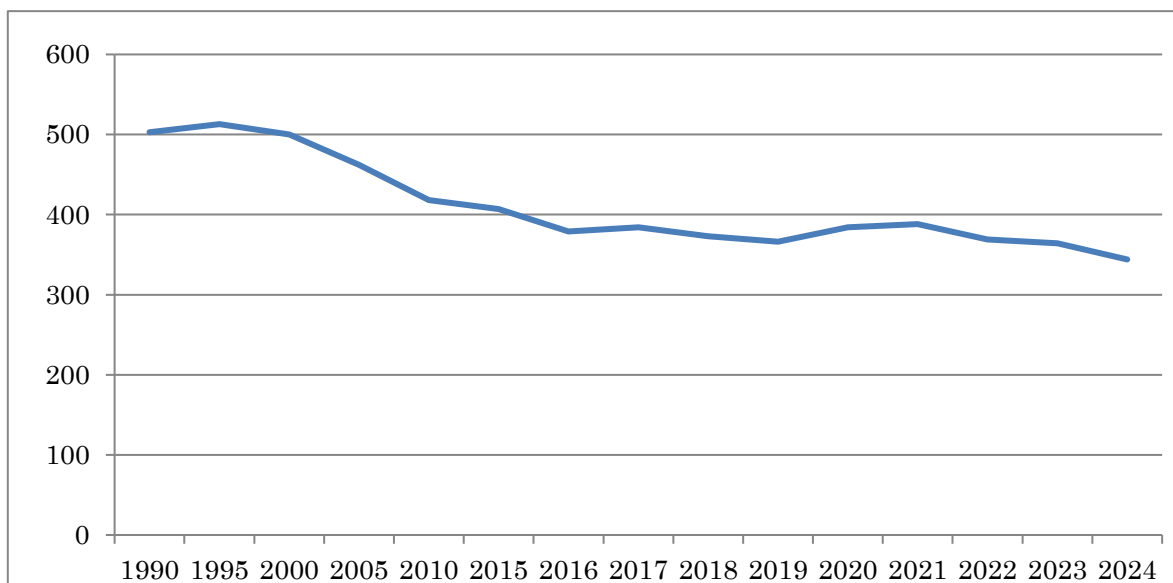
本ビジョンの策定に当たっては、国の「長期ビジョン」を勘案しつつ、人口の現状を分析し、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するとの考え方から、対象期間は長期ビジョンの期間である 2050 年とします。ただし、人口ビジョンとともに策定する総合戦略との関係性を明らかにする必要から、5 年後、10 年後、20 年後といった区間を定めて、各時点での人口の展望も明示します。

3. 人口の現状と分析

（1）人口の推移等

三島村の人口は、1960 年に 1,363 人でしたが、1970 年には 655 人と半減し、その後も減少傾向が続き、2015 年は 407 人となり、2025 年 2 月 1 日現在では 349 人となっています。

三島村の人口の推移



注：2016年以降は住民基本台帳ベース。それ以前は国勢調査

(2) 出生・死亡、転入・転出の推移と分析

出生数は、直近の6年間では17人が出生し、平均すると2.8人となります。

同様に、死亡数は23人となっており、平均で3.8人。毎年3人から7人が死亡しています。このことから、大まかな数字で示すと4人が死亡し3人が出生していることから毎年1人が減少するということとなります。

また、転入・転出では、転入が総数で392人、平均すると65.3人となっています。転出は総数が414人で平均69人。転入、転出の差で見ると転出が22人多く、平均で毎年3.7人が減少しています。

出生・死亡、転入・転出で見ると、出生・死亡による減、及び転入・転出からみても減になっていることで、人口減少に歯止めをかけるためにも、各種の施策の効果を検証しながら、効果的な施策の拡充等を目指すべきであります。

人口の推移と人口増減要素の分析

区分	社会増減			自然増減			社会・自然	末現在人口
	転入+	転出-	計	出生+	死亡-	計	計	
年								349
2019	61	69	-8	4	3	1	10	366
2020	74	58	16	4	1	3	19	384
2021	62	59	3	4	3	1	4	388
2022	68	83	-15	1	4	-3	-18	369
2023	71	75	-4	3	5	-2	-6	364
2024	56	70	-14	1	7	-6	-20	344
合計	392	414	-22	17	23	-6	-11	2215
平均	65.3	69	-3.7	2.8	3.8333	-1	-1.833333	369.2

	1999-2003 5年間平均	2004-2008 5年間平均	2009-2013 5年間平均	2014-2018 5年間平均	1999-2018 19年間平均
転入数	51.0	61.4	55.4	65.4	58.3
転出数	64.8	61.0	61.0	60.0	61.7
出生数	4.0	1.4	1.6	2.8	2.5
死亡数	4.4	4.0	4.8	5.2	4.6

資料 まち・ひと・しごと創生本部「地域経済システム」(RESAS：リーサス)

(3) 転入・転出の推移から見えること

1) しおかぜ留学制度による児童・生徒の転入・転出

三島村では、豊かな島の自然や文化、人々との交流を生かし、さまざまな体験活動を通して子供たちの生きる力を育むことを目的とした「しおかぜ留学」を1997年から導入し、村内4義務教育学校に全国各地から児童生徒を受け入れています。

この制度により、年々子供たちが増加し、2020年の国勢調査においては、15歳未満の人口比率が全国で最も高い23.5%という結果となりました。また、子供たちの存在が地域に活力を与え、学校が存続することで、地域の行事や貴重な伝統芸能が継承されています。

「しおかぜ留学」は、児童生徒の移動が人口減少に影響を及ぼしているだけではなく、三島村ならではの特色ある学校教育が益々発揮されて、都市部の課題を抱えた子供たちに充実した学校生活の機会を提供し、地域の活性化にも大きな役割を果たしています。

2) 教員の配置による影響

三島村の義務教育学校に配置される教員数は、学級の種類や数に応じて配置数が定められてい

ることから、学校の規模により教員数が左右されます。また、定期異動で転出入があり、教員の家族構成により増減します。

このことから、教員の増員を期待するためには、空き学年を解消する取組が不可欠です。

3) 定住支援策による影響

三島村は定住支援策を継続に実施していることにより、転入者増へ貢献しており、引き続き継続的な実施が必要です。

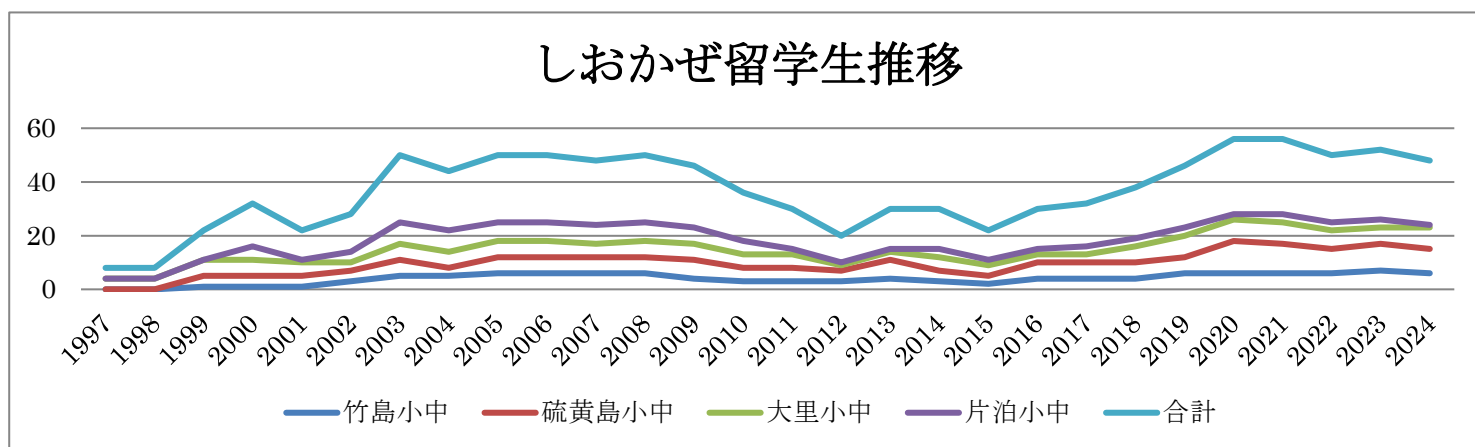
現行、5割程度とされる定住率の向上に向けたさらなる施策の展開が必要です。

4) ジャンベ留学生の影響

三島村では、アジアで初のジャンベスクールが開校されたことを機に、手つかずの豊かな自然の中でジャンベを学びたい人を募集し6か月の短期留学生を毎年5人程度受け入れています。これも、人口減少を抑える役割を担っていることから、2025年からジャンベ留学生を10名受け入れる取り組みをはじめます。今後もジャンベスクール及び冒険ランド施設の有効利用を視野に入れながら取り組んでいきます。

また、地域おこし協力隊員及び集落支援員は、2025年2月現在、2人受け入れています。人口減少へ歯止め策および人口増への貢献度等から、増加を検討すべきと思われるが、財政状況をみながら慎重に配置する必要があると思われる。

しおかぜ留学生の受入実績



(4) 産業分類別就業者数の分析

2020年の産業分類別就業者数は212人で、村全体の人口の55.2%を占めています。島別には、黒島が最も多く95人、次に硫黄島75人、竹島42人となっています。

産業別には、教育・学習支援業が55人で最も多く、次に農林業が30人、飲食業・宿泊業が22人、医療・福祉業22人となっています。なお、製造業の従業者は関係事業所がないことから皆無となっています。

2015年との比較では、全体では17人の増加となり、医療・福祉、教育・学習支援業での増加が目立ちます。

また飲食店・宿泊業が5人増加していることに注目し、今後は、旅館業としての施設も整備し、働く場所を設け、定住者増加に繋げることが重要です。

農林業が増加しているが、これは、村が畜産振興に力点を置いていることが大きく影響したと思われます。

図表 1-14 産業分類別就業者数

(単位:人、%)

	2020					2015	2020-2015 差増
	竹島	硫黄島	黒島	合計	構成比		
一次産業	7	14	17	38	17.9%	38	
農林業	4	12	14	30	14.2%	34	-4
漁業	3	2	3	8	3.7%	4	4
2次産業	1	9	12	22	10.4%	27	-5
建設業	1	8	10	19	9.0%	26	-7
製造業		1	2	3	1.4%	1	2
3次産業	34	52	66	152	71.7%	130	22
電気・ガス・水道業等	3	3	3	9	4.2%	6	3
情報・通信業		3	1	4	1.9%	1	3
運輸業		3		3	1.3%	10	-7
卸売・小売業	2	1	4	7	3.3%	4	3
学術・専門・技術サービス業		2	1	3	1.4%	2	1
飲食店・宿泊業	2	10	10	22	10.4%	17	5
生活関連サービス業・娯楽業	1	1		2	0.9%	4	-2
医療・福祉	6	8	8	22	10.5%	11	11
教育・学習支援業	14	12	29	55	26.0%	51	4
複合サービス業	1	2	3	6	2.8%	4	2
サービス業		1	2	3	1.4%	6	-3
公務	5	6	5	16	7.6%	14	2
就業者総数	42	75	95	212	100.0%	195	17

資料 公益財団法人日本離島センター「離島統計年報 2022」

4、人口ビジョンの改定

三島村の人口の推移および増減分析並びに就業構造分析等から、第Ⅲ期総合戦略における人口ビジョンを次のように改定します。

現行の人口ビジョンは、2025年には384人を見込み、2050年には429人を見込んでいました。

一方、2025年2月1日の村の人口は349人（199世帯）であり、2025年の目標384人に対して、35人不足しています。これまで、目標を定め、様々な施策を展開してきましたが、最大の課題は、新規住者の希望はあるものの入居可能な住宅の確保ができていないことです。

定住住宅の整備を進めていますが財政力が乏しい三島村にあっては、新規住宅に関しては毎年1戸ないし2戸が限界であります。民間住宅等をリフォームし入居可能とする事業も積極的に取り入れ、年間3戸入居できる住宅を確保することを目指し、今後の5年間で住宅整備を見込み、人口増を考慮した場合は、15戸×1.8人＝27人となります。

また、ジャンベ留学制度の見直しを行い、留学生10名を受入れすることと、しおかぜ留学生の宿舎の整備を計画的に建設し40名規模（現在25名規模）の留学生にすることで、両事業併せて、次期5年間で25人の増を見込み、5年後には401人の人口を目指すこととします。

(2/1日349人+27人+25人=401人(2030目標))

三島村の人口将来推計

年	2010	2015	2019	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
社人研推計	418	407	358	354	338	297	269	246	231	219
村の人口ビジョン	418	407	366	375	384	401	411	421	431	441
差増	0	0	8	21	46	114	142	175	200	222

